

JICA 課題別研修

「地域に根ざしたインクルーシブアプローチによる障害者の社会参加 (B)」

1/13(土) 映画「インディペンデントリビング」
上映会！

2024年1月15日に開講する課題別研修「地域に根ざしたインクルーシブアプローチによる障害者の社会参加(B)」では、障害者の生計支援や就労支援に加えて、インクルーシブ教育(障害の有無にかかわらずすべての子どもを受け入れる教育)や、自立生活に向けた取り組みなど、県内で実施されている幅広い支援活動を紹介します。

研修実施に先立ち、障害者の自立生活にフォーカスしたドキュメンタリー映画「インディペンデントリビング」の上映会を実施します。上映会には研修に参加する海外の研修員のみならず、障害者を含む地域の方々にもご参加いただき、参加者全員で障害者の自立生活に向けた理解を深めます。

また映画上映後は、沖縄県における障害者自立生活運動を推し進めてきた、NPOエンパワメント沖縄理事長である高嶺豊氏と、NPO沖縄県自立センター・イルカ代表の長位鈴子による座談会を行い、日本における障害者権利条約の実施状況、特に施設の在り方やインクルーシブ教育、障害者の自立生活運動のこれまでと今後の課題、障害当事者が行う国際協力の意義などについてお話頂きます。

メディアの皆さまの取材をお待ちしております。

映画上映会スケジュール

(上映日:2024年1月13日(土)、場所:JICA 沖縄 ニライホール3階、多目的室)

13:45	開場
14:00~15:50	映画「インディペンデントリビング」上映
16:00~16:50	参加者(主に研修員)による感想、質疑応答
17:00~18:00	有識者による座談会

本件に関するお申込み・お問い合わせ先

独立行政法人国際協力機構(JICA)沖縄センター 研修業務課 担当: 大城

TEL: 098-876-6000 TEL: 080-7201-6672(携帯)

E-mail: Oshiro.Yosaku@jica.go.jp

JICA沖縄

1/13(土) 映画「インディペンデントリビング」上映会！

JICA沖縄では、開発途上国における障害者の社会参画を促進することを目的に、海外から福祉政策に携わる行政官や障害者支援団体の職員を招いて研修を行っております。

この度、研修の一環で、日本における障害者の自立生活に焦点をあてたドキュメンタリー映画「インディペンデントリビング」の上映会を実施することとなりました。一般の方々の参加も受け付けておりますので、是非ご参加ください。また、映画上映後は、沖縄における障害者自立生活運動をけん引してきた有識者（高嶺豊氏・長位鈴子氏）による対談も予定しておりますので、是非そちらもご参加ください。



障害者が“自立生活”を選ぶ。

INDEPENDENT LIVING

インディペンデントリビング

監督：田中悠輝 プロデューサー：鎌仲ひとみ
撮影：辻井深／岩田まき子／田中悠輝
編集・構成：辻井深 製作：ぶんぶんフィルムズ
製作協力：全国自立生活センター協議会／自立生活夢宙センター
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業）独立行政法人日本芸術文化振興会
和フジ福祉財団 公益財団法人 キリン福祉財団 全国自立生活センター協議会
2019 | 日本 | 98分 | カラー | DCP | ドキュメンタリー ©ぶんぶんフィルムズ
bunbunfilms.com/filmil



ぜんぶ抱えてワガママに生きる。

舞台は障害当事者が運営する自立生活センター。そこは“生きづらさ”を抱えた人が“自分らしさ”を取り戻す場所。



**リスクを負ってでも手にしたい“自由”がある。
自由を手にすることでしか、みつからない“自分”がいる。**

物語の舞台は大阪にある自立生活センター。ここは障害当事者が運営をし、日常的に手助けを必要とする人が、一人で暮らせるよう支援をしている。先天的なものだけでなく、病気や事故などにより様々な障害を抱えながら、家族の元や施設ではなく、自立生活を希望する人たち。自由と引き換えに、リスクや責任を負うことになる自立生活は、彼らにとってまさに“命がけ”のチャレンジだ。家族との衝突、介助者とのコミュニケーションなど課題も多く、時に失敗することもある。しかし、自ら決断し、行動することで彼らはささやかに、確実に変化をしていく――。



体が動かなくても、想いが伝えられなくても、

監督は自らも介助者として働く田中悠輝。障害当事者からの「自分たちの姿を撮って欲しい」という声を受け、自立支援の現場で3年にわたり撮影を続けた。彼らとの関わりを通して、自分自身の内に「障害者」という勝手な^{イメージ}枠組があると気づいた監督が、その^{イメージ}枠組を壊し、自分を、社会を、変えていこうと奮闘する人々を見つめ、“生きづらさ”を抱えた人たちが、“自分らしさを”取り戻す瞬間とその輝きを映し出す。

主な登場人物



フチケン

事故で頸髄を損傷、首から下に麻痺がある。20年近く介護を担っていた母親の死を機に、自立生活を始める。



たいき

脳性麻痺と知的の障害当事者。18歳まで入所していた施設を出て、自立生活を始める。



あっすー

知的と精神の障害当事者。てんかんのような発作に悩まされながら、自立生活を目指す。母親と、時に衝突が起きる。



トリス

くも膜下出血により高次脳機能障害となり、右半身の麻痺と失語症がある。自立生活を目指してセンターを訪ねる。

自立生活センターとは？

重度の障害があっても地域で自立して生活ができるように、必要なサービスを提供する事業体であり、同時に障害者の権利の獲得を求める運動体である。センターは障害当事者により運営され、身体障害に限らず、知的、精神の障害者のサポートもしている。1972年、アメリカ・カリフォルニア州に世界初の自立生活センターが誕生。1986年に日本でも初めての自立生活センターが生まれた。2019年現在、全国に121の自立生活センターがある。

bunbunfilms.com/filmil [@Independent.Living.documentary](https://www.facebook.com/Independent.Living.documentary)

本作は通常上映が【バリアフリー上映(日本語字幕つき、音声ガイド[UDcast方式]つき)】となります。詳細は映画公式サイトをご確認ください。

【日時】 2024年1月13日 (土)

予約不要・参加無料！

午後2:00～3:50 上映

午後4:00～4:50 参加者（主に海外からの研修員）からの感想、質疑応答

午後5:00～6:00 有識者による座談会

(NPOエンパワメント沖縄理事長：高嶺豊、NPO沖縄県自立生活センター・イルカ代表：長位鈴子)

【会場】 JICA沖縄ニライホール3階、多目的室

住所：沖縄県浦添市字前田1143-1

【お問い合わせ】

JICA沖縄 研修業務課 大城洋作

(email: Oshiro.Yosaku@jica.go.jp. Tel: 098-876-6000)

